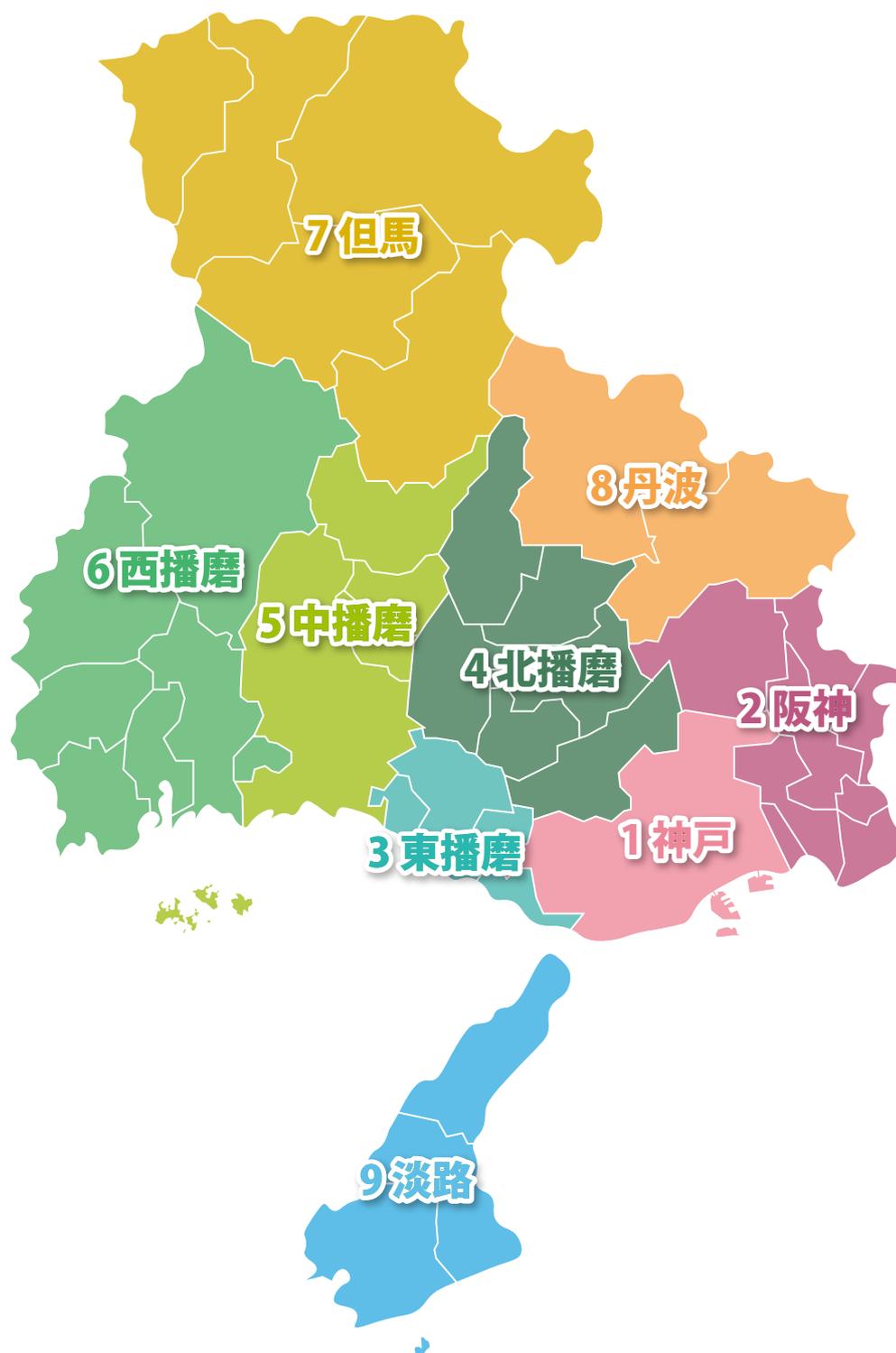


参考資料 地域のアクションプラン

ビジョンの着実な推進を図るため、各地域では、それぞれの地域特性に応じた施策の実行計画（地域アクションプラン）を策定しています。

地域アクションプランでは、気候、風土や生活圏域、行政区分等のまとまりを考慮した9の地域を設定し、ビジョンに示される施策の基本方向に沿って、それぞれの地域において令和3年度から7年度までの5年間に推進していく施策とその目標を明らかにしています。

ここでは、各地域の特徴を踏まえた主な取組を掲載しています。





神戸地域

都市と「農」を結ぶ「農都・神戸」の実現

I 施策の展開方向

都市住民と農家の交流による活気ある里山暮らしが実現する「農都・神戸」の展開に向け、新鮮で安全・安心な農畜水産物の生産拡大やブランド化を進めます。

また、安心して暮らせる地域の実現に向け、農業用ため池では、水害・地震、漁港においては、津波・高潮に対する防災機能を強化するとともに、六甲山等での森林保全・土砂災害対策やイノシシの被害対策を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

生産性の高い施設園芸の拡大に向け、葉物野菜では、FG（鮮度保持包装）出荷による調整作業の省力化や、トマト、いちごでは、環境制御技術の導入を促進します。花きでは、経営効



環境制御によるトマト栽培

率の向上や新たな需要創出に向け、神戸で生まれたシンテッポウユリの優れた品種・系統の維持や安定生産、子供たちが花に親しむ「花育活動」を推進します。果樹では、収量や品質向上に向け、いちじくやぶどう等の優良品種・樹種への改植・新植を推進します。

また、地域農業のあり方を明確にするため、中心となる農業者とそれ以外の農業者の役割分担を踏まえた「人・農地プラン」の実質化や、農地中間管理事業の活用等による農地の集積・集約化を促進します。



シンテッポウユリ

さらに、大消費地に近い立地条件の良い神戸での新規就農を促進するため、就農計画の策定から早期の技術習得等まできめ細かな就農相談を実施します。

推進項目 3

需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

畜産経営の強化に向け、但馬牛の増頭支援による規模拡大、搾乳ロボットや自動給餌機等ICTを活用した省力化機械の導入により、労働負担を軽減します。

推進項目 5

豊かな海と持続的な水産業の実現

豊かな海の再生に向け、神戸地先の藻場や浅場等の生物の生息環境及び資源の保全・回復とともに、経営感覚に優れた後継者等の確保・育成に取り組みます。また、持続的な漁業の実現に向け、漁船などの貸与制度の活用促進や産地市場の電子入札システムの導入等により、大阪湾での沿岸漁業やノリ養殖業の収益性の向上を図ります。

推進項目 9

農山漁村の防災・減災対策の推進

集中豪雨や台風、地震等による災害の未然防止を図るため、①決壊リスクの高い農業用ため池の改修整備や、六甲山系の山地災害危険地区における治山施設の計画的な整備等による減災対策、②漁港施設の長寿命化や陸揚岸壁の耐震化等を推進します。

推進項目 10

豊かな森づくりの推進

手入れが十分でない六甲山系等の里山林の適正な管理に向け、森林環境譲与税等を活用した整備を推進します。また、水源かん養や土砂災害防止機能などの発揮により、暮らしを守ることをめざし、都市山防災整備など、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」を進めます。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

多様な分野との連携による地域活性化に向け、観光農園等を核として都市住民との交流促進や、漁業体験施設等を活用した観光漁業の推進、県と神戸市等との協力による農福連携を進めます。



阪神地域

「農」と食の魅力を活かし楽しむ「阪神アグリパーク」の実現

I 施策の展開方向

県民が地域の「農」や食の魅力を活かし楽しむことができるテーマパーク(阪神アグリパーク)の実現に向け、南部地域は、都市農業を振興します。北部地域は、豊かな田園地帯と日本一の里山を有する阪神地域の特性を活かし、生産者と消費者・実需者がともに支え合いながら、身近な所で安全・安心かつ新鮮で良質な農林水産物の安定的な生産・供給を進めます。

また、農村資源や里山を守るため、都市住民も含めた多様な主体による農地・水路等の維持管理や里山林の保全活用などの取組を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

収益性の高い農業経営の展開に向け、施設野菜では、パイプハウスなど生産施設の導入支援や環境制御技術の活用促進、露地野菜では、品種を組み



生産緑地での葉物野菜栽培

合わせたりレレー出荷による阪神産黒大豆枝豆の特産化を進めます。水稲では、地産地消を基軸とした生産とブランド力向上を図るため、新品種導入やドローン等スマート農業技術の導入促進、ブランド米や業務用米、酒米「山田錦」など多様なニーズに対応した米づくりを推進します。

また、次代を担う経営力の高い担い手を育成するため、阪神地域就農支援センターが中心となり、地元農家でのインターンシップや親方農家での研修による技術習得の支援等を推進します。

さらに、持続的な農地の活用・保全に向け、担い手と土地持ち非農家等の役割を分担する協定づくりや「人・農地プラン」の作成・実質化、地域協働で行う農地・水路・農道等の保全活動を推進します。

推進項目 3

需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

地域を代表する「三田牛」のブランド力と生産力を強化するため、新たな牛舎整備や肥育農家の繁殖・肥育一貫経営の導入を進めます。

また、酪農では、経営の安定化に向け、分娩監視・発情発見システム等のスマート技術を活用した管理システム導入など作業の省力化や耕畜連携による稲発酵粗飼料(WCS)の確保を支援します。

推進項目 8

特色を活かした活力ある地域づくりの推進

母子大池疏水等貴重な農業遺産や豊かな農村環境を地域全体で守るため、ため池や井堰の計画的な改修を支援します。

また、都市農地の保全に向け、生産緑地の「特定生産緑地」への円滑な移行支援や、多様な主体による農地の活用を促進するため、福祉事業所等による農業経営や民間企業による市民農園の開設等を推進します。



日本一と称される北摂の里山

推進項目 10

豊かな森づくりの推進

歴史、文化、景観等の視点から日本一と称される北摂の里山の保全・活用を図るため、土留工の設置等による防災機能の強化に努めるとともに、森林ボランティアや企業等による保全活動、炭や薪、ほだ木等への活用を促進します。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

農福連携の取組を推進するため、農業や畜産業での障害者の雇用など、農業者と福祉事業者とのマッチングや福祉事業者等の農業参入などの取組を支援します。

推進項目 13

県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

阪神産食材の購入機会を拡大するため、イベントや各種広報媒体を活用して阪神地域の「農」と食の魅力を発信するとともに、直売所等への地元野菜等の供給体制を強化します。

また、新たな加工品開発や阪神産食材を使う飲食店等の拡大に向け、実需者との連携を深めます。



HIGASHI
HARIMA

東播磨地域

地域が育む豊かで活力ある東播磨の「農」の創出

I 施策の展開方向

地域住民が地元の農林水産物に対して深い愛着を持つ農林水産業・農山漁村の創出に向け、都市近郊に立地した東播磨地域の特長を活かし、農林水産物の生産拡大や高付加価値化、それらを活用した交流・体験の機会の創出を進めます。

また、活力ある地域の実現に向け、6次産業化による就業機会の増加や、海への栄養塩供給や漁場環境の改善による生産力の維持・増大、さらには、ため池・里山の防災機能の強化を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 1

スマート化による新しい農林水産業の実現

農林漁業経営の省力化・効率化を図るため、①農業では、トマトやいちごの施設園芸における環境制御技術や、水稻栽培における直進アシスト機能付き田植機、大麦（シュンライ）等の土地利用型作物の病害虫に対するドローン防除等の導入の促進、②水産業では、産地市場における電子入札システムの導入やICT等の活用による漁場環境情報・漁獲データ等の収集・共有等を図ります。

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

持続可能な経営体育成のため、人材確保など経営力強化、企業参入や農福連携等を推進し、持続可能な経営体を育成します。

また、力強い地域農業の確立に向け、人・農地プランの実質化や、農地中間管理事業による優良農地の集積・集約化を推進します。



日本初の純国産パスタ
「加古川パスタ」

さらに、野菜、花き等農産物の生産拡大に向け、担い手の育成や省力化機械の導入を促進し、特に、特産の麦類は、作付け転換による生産拡大や新たな加工品の開発、加古川パスタの飲食店への供給拡大を支援します。

推進項目 3

需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

畜産物のブランド力の強化と需要拡大に向け、優れた技術をもつ担い手の育成・確保や、法人等の新規参入や規模拡大の支援、地域ブランドの「加古川和牛」の品質の高さのPRや省力安定生産技術の導入、神戸ビーフ認定率の向上によるブランド力の強化を推進します。

推進項目 5

豊かな海と持続的な水産業の実現

「豊かな海の再生」に向け、漁業者による鹿ノ瀬等重要海域での海底耕うんやため池のかいぼりなど陸から海への栄養塩供給を促進するとともに、生物の良好な生息環境の確保及び資源の保全・回復などの取組を推進します。



県内一の生産量を誇るノリ

また、経営感覚に優れた後継者等の確保・育成に向け、漁船などの貸与制度により新規漁業就業者の設備投資の負担を軽減します。

推進項目 9

農山漁村の防災・減災対策の推進

県内有数のため池密集地域として、頻発するゲリラ豪雨や南海トラフ等の大規模地震に備えるため、計画的にため池の改修や、「いなみ野ため池ミュージアム」との連携によるため池や水路等の水辺空間を活用した地域づくりを行い、防災・減災対策を推進します。

また、漁港では、巨大地震による津波に備えるため、沿岸部の特性に応じた効果的・効率的な地震津波対策を推進します。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

繁忙期の人手不足に悩む野菜栽培を中心に取り組まれているJA兵庫南等の農福連携をモデルに、障害者の障害に応じた農作業が可能となるように工夫するなど、障害者の雇用に向けた体制づくりを推進します。

推進項目 13

県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

農作業体験等の地域情報の発信機能の付加など地域直売所の機能強化を進めるとともに、ノリ、マダイ、マダコ、カキなどの水産物についても認知度向上と消費拡大を推進します。



KITA HARIMA

北播磨地域

豊かな自然と人がはぐくむ「農」と「食」の郷づくり

I 施策の展開方向

活力ある農林業の創造と地域全体の活性化に向け、北播磨地域の豊かな自然と県の中央に位置し多くの地域と接する立地の強みを活かし、産地と消費者の活発な交流促進を進めます。

また、農業では、北播磨の特産農畜産物の魅力を向上させることにより、ブランド力の強化を図るとともに、6次産業化による付加価値向上や地域で消費を支える地産地消を促進します。森林・林業では、北播磨産木材の利用推進のため、幅広い需要に対応できる低コストかつ安定的な供給体制の構築を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

水稲は、需要動向に合った米づくりに向け、省力・低コスト栽培技術の確立・普及に取り組めます。特に、山田錦は、実需者ニーズに沿った品質確保と安定生産に加え、黒大豆枝豆や業務用米など他作物への生産転換を進めます。もち麦は、実需者への安定供給に向け、栽培技術の向上を図るとともに、食品メーカーと連携したブランド化に取り組めます。園芸作物は、ブランド構築に向け、環境制御技術を活用した園芸施設の整備支援や、花きのオリジナル品種の育成等に取り組めます。ぶどうやももは、歴史ある産地の維持拡大を図るため、消費者ニーズの高い品種への転換と高付加価値化の推進や、新規就農者等の育成・確保に取り組めます。



新たな特産物として期待される黒大豆枝豆「ひかり姫」の収穫機実演

また、持続可能な地域農業の実現に向け、人・農地プランの実質化を進め、集落内の中心的担い手を明確にするるとともに、多様な人材の営農計画参画や地域活動への参加を促進します。

推進項目 3

需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

肥育牛は、神戸ビーフ率の向上や「黒田庄和牛」のPRとブランド力の強化に向け、牛舎の暑熱対策など飼養環境の改善や、導入子牛の栄養状態の把握と肥育期間中の栄養管理を徹底します。

また、酪農では、生乳生産量の増加と乳質向上を図るため、TMR(完全混合飼料)の利用促進等による飼養管理技術の改善、搾乳方法の改善と搾乳機器の更新による乳房炎対策を徹底します。

さらに、養鶏では、地域ブランド「播州百日どり」の生産・流通の拡大に向け、人気・知名度の向上を図ります。

推進項目 4

木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

北播磨産木材の利用拡大に向け、CLT等新たな木質建材を活用した公共施設等の木造・木質化を推進するとともに、原木の安定供給体制の構築に向け、収益性の高い林業事業者を



育成や森林組合と素材生産業者等の連携を推進します。

また、林業生産サイクルが円滑に循環する林業経営の実現に向け、最適な木材搬出のシミュレーションを行うアプリの開発など、低コストで効率的な伐採・更新方法を構築します。

推進項目 8

特色を活かした活力ある地域づくりの推進

集落の活性化や農業・農村の持つ多面的機能の維持・発揮に向け、農地や水路等の地域資源の維持管理を農家だけでなく非農家等を含めた集落に住む全ての住民が担う共同活動の取組を進めます。あわせて、農業基盤及び石積みの棚田がある北播磨地域特有の景観の維持・保全を図ります。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

北播磨地域の実状に応じた農福連携を促進するため、障害者の雇用に意欲を持つ農業者に対して、農福連携の取組事例や実施可能な作業内容の情報提供等を行います。

また、グリーン・ツーリズムを推進するため、「食」だけでなく、農業体験や田舎体験などの様々な「農」体験が可能な北播磨地域の魅力を活かし、誘導するような仕組みを構築します。

推進項目 13

県民への農林水産物の安定供給と県産県消の推進

地産地消を推進するため、北播磨管内の高校が主体となった地元食材を使ったレシピの作成や飲食店と協力した高校生レストランの開設等、斬新な視点に基づく活動を支援するとともに、学校給食を通じて子どもたちの北播磨地域の農林業や地元食文化への理解を促進します。



NAKA
HARIMA

中播磨地域

人と地域がつながる“元気”な中播磨の農林水産業の実現

I 施策の展開方向

中播磨地域の活性化に向け、農林水産業に携わる人々がこれまで以上に職業に誇りを持ち、いきいきと働くことができるよう取組を進めます。

また、地域に住む人々には地元を好きになり、誇りに思える中播磨地域の実現に向け、自然災害に強く、安心な「暮らし」の中で、農林水産業や自然に「ふれる」機会を提供し、地域内で生産される多様な農林水産物を「買う」、美味しく「味わう」機会の提供を進めます。

さらに、観光等で中播磨を訪れた人々には、中播磨を楽しみ、好きになり、また訪れたい、住んでみたいと思える地域の実現に向け、自然や農林水産業に「ふれる」機会、豊かな農林水産物を「買う」「味わう」機会、心地よく「滞在する」機会の提供を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

露地野菜の生産拡大に向け、土地利型作物(水稲、麦、大豆等)主体の集落営農組織や大規模経営体を新たな野菜生産の担い手として育成するとともに、たまねぎ等の新規品目の導入を促進します。



大型機械によるたまねぎの収穫作業

また、果樹では、高品質化と安定生産に向け、鮮度を重視するいちじく、消費者ニーズの高いぶどうの導入促進や、多彩な加工品が開発されているゆずの生産振興を推進します。

さらに、収益性の高い農業の実現に向け、もち麦、網干メロン、れんこん等の特産物を振興します。

加えて、持続可能な地域コミュニティづくりを進めるため、担い手だけでなく営農継続を希望する小規模農家を含めて、地域全体で農地活用・保全を図る「いきいき農地バンク方式」を推進します。

推進項目 4

木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

中播磨産木材の一層の利用促進に向け、市町が策定した「木材利用促進方針」を踏まえ、公共施設の木造・木質化を推進します。

また、成熟しつつある人工林資源を有効に活用するため、森林施業の集約化や、高密度な路網整備の推進、高性能林業機械等スマート技術の導入促進、林業事業者や担い手の育成強化等による効率的な原木生産体制の整備に取り組みます。

推進項目 5

豊かな海と持続的な水産業の実現

「豊かな海の再生」に向け、漁業者による海底耕うんをはじめ、豊かな海創生活動による藻場や浅場等の生物生

息環境の保全・回復等に取り組みます。

また、海域の生産力の底上げに向け、魚介類の産卵・育成場(藻場)等の整備や、老朽化した増殖場の機能を回復・強化に向けた調査研究を進めるとともに、ノリ、カキ等養殖業の一層の生産を振興します。



石材礁の造成イメージ

推進項目 9

農山漁村の防災・減災対策の推進

安全・安心な生活を確保するため、防災・減災上の緊急性が高いと判断された農業水利施設(ため池・疏水・井堰・樋門)は、施設の整備・改修や統廃合、長寿命化等を計画的に推進します。

また、森林の公益的機能の維持増進を図るため、山地災害危険地区の着手率の向上や治山ダム等の重点整備を進めるなど、「山地防災・土砂災害対策」を推進します。

さらに、南海トラフ地震等による津波や高潮等の自然災害から住民の生命や財産を守るため、中播磨管内の漁港では、護岸の耐震化や老朽化した施設の機能保全による防災対策を推進します。

推進項目 11

食と「農」に親しむ楽農生活の推進

地場産物の購入機会の拡大や交流人口の増加を図るため、大小様々な規模の直売施設や、農林漁業体験施設、地産地消レストラン、農家民宿や史跡・観光施設等を拠点として、地域農畜水産物・農山漁村の良さの情報を発信します。また、中山間地域の活性化と楽農生活の推進に向け、移住者等の農的暮らし(小さな農業)の支援や、姫路市や福崎町の立地を活かした市民農園の開設を推進します。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

中播磨地域における農業者と福祉事業所等の農福連携の取組を進めるため、取組事例の情報収集や必要に応じた農業技術への助言指導等を行います。



NISHI
HARIMA

西播磨地域

西播磨地域「水」と「緑」に育まれた生き生きとした地域づくり

I 施策の展開方向

新規就農者が定着し、女性や高齢者、障害者等、多様な人々が生き生きと活躍できる農林水産業の実現と、地域全体の活性化に向け、西播磨の豊かな「水」と「緑」を基礎に、生産者と消費者、農山漁村と都市の結びつきの強化を進めます。

また、地域の暮らしを守るため、集落ぐるみの活動を活性化させ、農地や水路などの農業用施設、里山などの地域資源の保全を図ります。さらに、安全・安心な農山漁村の実現に向け、ため池や山地災害、高潮・津波等に対する防災・減災対策を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 1

スマート化による新しい農林水産業の実現

西播磨地域の営農条件に適合したスマート農業技術の確立に向け、施設園芸では環境制御技術、土地利用型ではドローンによるセンシング技術等の導入や自動水管理システムの実証等を行います。

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

実需者ニーズに応じた農産物の安定生産・安定供給に向け、醤油醸造に適した高タンパク小麦やGIを取得した佐用もち大豆等の生産振興とともに、さんしょうやバジルの産地化、さらにはブランド化を推進します。



佐用もち大豆

また、担い手農家が少ない地域では、多様な担い手による活力ある農村づくりに向け、「人・農地プラン」の作成を推進するとともに、持続可能な地域コミュニティの確立に向け、「いきいき農地バンク方式」の取組拡大を図ります。

推進項目 4

木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

近畿有数の木材市場や大規模製材工場を最大限に活用し、競争力のある県産材の加工・流通体制を一層強化するため、林内路網の整備や高性能林業機械の導入による原木の安定供給を進めるとともに、主伐・再造林の低コストモデルの構築等を図ります。



兵庫木材センター製材ライン
(宍粟市一宮町)

推進項目 5

豊かな海と持続的な水産業の実現

養殖業の成長産業化に向け、カキ養殖では、消費地でのプロモーション活動による販路拡大や形の良いプレミアムガキの開発と生産拡大を推進します。

また、アサリでは、高品質な純兵庫県産アサリの生産を進めるため、アサリの県産人工種苗からの養殖技術の開発と普及を推進します。

推進項目 8

特色を活かした活力ある地域づくりの推進

中国山地の奥深い森と播磨灘臨海部を揖保川・千種川の清流が結ぶ多様な農山漁村の維持・発展を図るため、地域の豊かな田園風景や棚田、史跡や伝統行事といった地域資源を活かしながら、地域の農林水産物の直売や加工、高付加価値化に取り組みます。また、都市部との連携を進め交流人口の増加を図ります。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

誰もが活躍できる農林水産業・農山漁村づくりに向け、「西播磨農福連携推進協議会(仮称)」を設立し、障害者側と農業者側の両者の意見交換の場を設け、マッチングを円滑に進めることにより、農業者側の理解促進と受入体制づくりを進めます。

また、観光農水産業を活性化するため、名物料理や特産品の開発・提供や、御津の梅園や波賀の観光りんご園、潮干狩り等の特色ある施設を一体的にPRすることにより、地域への集客を図ります。



但馬地域

たしまうし
大空にコウノトリ舞い、大地に但馬牛歩み、浜に松葉ガニ踊る

次代につなぐ人と環境にやさしい活力ある但馬の農林水産業の展開

I 施策の展開方向

但馬地域では平野から高原に至る農地、広大な森林、豊かな日本海で多様な農林水産業が営まれ、コウノトリと共生する取組や最高品質の但馬ビーフなどが国内外で注目されています。

このため、農林水産業の持続的な維持・発展に向け、生産基盤強化や新技術導入など生産力の向上とさらなるブランド化を進めるとともに、農林水産業の経営力の向上により地域内外からの人材確保を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 1

スマート化による新しい農林水産業の実現

高齢化や担い手不足に対応するため、中山間地の長大法面の管理に適した自走式草刈り機など但馬地域に適したスマート技術の導入を進めます。



但馬の多様な農林水産物

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

コウノトリ育むお米やピーマン、岩津ねぎ、朝倉さんしょ、なしおとめ、美方大納言小豆など多様な特産物を振興するため、ICTを活用した水管理などの安定生産・省力化体系の確立や、加工技術・加工品の開発などによる高付加価値化を強化していきます。

推進項目 3

需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

担い手の確保のため、日本農業遺産として認定された「兵庫美方地域の但馬牛システム」を活用したPRを地域内外に行うことにより、新規就農者の呼び込みに取り組みます。また、但馬牛の生産拡大を進めるため、参入希望者や規模拡大農家向けの牛舎整備を推進するとともに、域内での消費拡大に向けては、観光産業と連携を強化します。

さらに、耕畜連携の取組を拡大するため、良質な堆肥の生産と利用を促進します。

推進項目 4

木材利用の拡大と資源循環型林業の推進

森林資源の利活用と適切な森林管理に向け、林業経営に適した人工林では、資源循環型林業を展開し、条件不利地では、森林環境譲与税を活用した間伐により、針広混交林化を促し、管理コストの低減を図ります。また、既存の原木市場や製材工場に加え、朝来バイオマス発電所への原木の安定供給を行うため、高性能機械の導入により原木生産

体制を強化します。さらに、木材利用の拡大に向け、地域材の魅力や利用の意義を伝えるPR活動にも取り組みます。

推進項目 5

豊かな海と持続的な水産業の実現

水産資源の持続的な利用のため、魚礁や増殖場の整備に加え、ズワイガニなどの漁獲可能量の設定等により、水産資源の保存及び管理を実践します。また、若手船員確保に向け、未経験者に対する漁労作業の現場研修を支援します。さらに、漁業経営の継続と漁獲物の品質向上を図るため、高鮮度保持機器や居住性と作業環境が改善された改革型漁船の導入等を進めるとともに、水産加工業や観光業と協働し、新たな魚種の利用や、通販等への市場環境の変化に適應できる生産・流通・販売体制の整備に取り組みます。

推進項目 8

特色を活かした活力ある地域づくりの推進

但馬の自然や文化、風土を活かした地域づくりに向け、棚田、食材、伝統行事等の地域資源を活かした地域の賑わいや人材確保、農地保全、集落機能の維持を図ります。また、野生動物か



次代を支える担い手たち

らの被害防止を図るため、積極的な捕獲や防止柵設置、地域住民による対策の実践、捕獲した加害獣の活用を進めます。

推進項目 9

農山漁村の防災・減災対策の推進

防災・減災対策を進めるため、但馬地域に多い地すべり防止区域での防止工事や老朽化した井堰の改修、ため池の改修、治山ダムの整備や漁港の耐震化、防災知識の普及啓発に取り組みます。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

農福連携の推進を図るため、受入れ事業者に対する研修や受入事例のPRにより、機運の醸成とマッチング支援を行います。また、但馬地域の豊富な観光資源を生かしたグリーン・ツーリズム、マリン&リバーツーリズムを推進します。



丹波地域

豊かな食・緑を育む丹波地域の里づくり

I 施策の展開方向

地域の農産物の強みを活かした力強い農業の展開に向け、スマート農業の推進、担い手の育成、農業の6次産業化等を進めるとともに、丹波地域のブランド農産物の新たな価値の創造を進めます。

また、林業・木材産業の活性化に向け、豊富な人工林資源が成熟化する中、利用間伐を推進するとともに、低コストかつ安定的な原木生産体制の構築を進め、丹波地域の木材の利用拡大を進めます。

さらに、集落機能が維持保全された活力ある安全・安心な農山村の実現に向け、集落ぐるみの活動を活性化させ、獣害防止やため池改修等の防災・減災対策の計画的な実施を進めます。

II 主な取組内容

推進項目1

スマート化による新しい農林水産業の実現

丹波型のスマート農業技術の確立に向け、ドローン、リモコン式草刈機や自動水管理システムなどのスマート農業機械の導入を支援するとともに、国等が開発した技術を水稻、黒大豆、山の芋をはじめとする特産物の栽培にアレンジします。



黒大豆の防除で活躍するドローン

いくため、「兵庫丹波の実り・魅力ある地域づくり構想(仮称、令和3年3月策定)」に基づき、多様なメディアを活用し、ブランド農産物の特長だけでなく、取り扱う直売所や飲食店等の情報発信や、消費者が丹波地域のブランド農産物を気軽に楽しめるイベント等を実施するとともに、6次産業化や商工業者との連携を通じた魅力ある商品開発や販路開拓等の取組を進めます。

推進項目10

豊かな森づくりの推進

地域の森林の適正管理を図るため、森林環境譲与税等を活用した間伐など人工林の管理を進めるとともに、「丹波の森宣言」に基づいて、里山づくりのモデル団体の継続的な活動支援などに取り組みます。



緊急防災林整備の状況

また、森林の防災機能を強化するため、県民緑税を活用し、緊急防災林整備、里山防災林整備、針葉樹林と広葉樹林の混交整備、野生動物共生林整備など「災害に強い森づくり」に計画的に取り組みます。

推進項目12

「農」と多様な分野との連携強化

農福連携の機運の醸成を図るため、ホームページや冊子の配布等で情報発信するとともに、福祉事業所と農業者のマッチングなどの支援に取り組みます。

また、グリーン・ツーリズムを推進するため、黒大豆の収穫などの農業体験等を行う施設の魅力アップに向けた支援や、体験施設等の情報発信の支援、旅行業者と連携した農業体験のツアーの商品化などを支援します。

推進項目2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

新規就農者の確保・育成を図るため、丹波地域就農支援センターを核に、就農相談、経営計画の作成支援、生産技術・経営研修など、就農開始から定着に繋がるワンストップによる支援を行います。

また、多様な担い手の育成を図るため、農業参入を希望する企業に対する農地のあっせん、加工グループや女性起業者に対する新商品の開発や経営管理能力の向上の支援、定年帰農者や高齢者等が山の芋栽培の基礎知識を学ぶ山の芋スクールなど栽培技術習得の機会の提供等を行います。

さらに、地域の中心となる経営体が効率的・継続的に農業経営を行える基盤づくりを進めるため、人・農地プランの作成・実質化を推進します。加えて、担い手への農地の集積・集約を進めるため、農地バンクの活用を推進します。

推進項目6

農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上

黒大豆、大納言小豆、山の芋、栗など丹波地域のブランド農産物に対する消費者や実需者等の支持を高めて



淡路地域

「食の島あわじ」、令和の「御食国」づくり

I 施策の展開方向

自然豊かな大地と海の恵みを活かし、古来より朝廷に食材を献上してきた食の宝庫。淡路島でしか体験できない五感を刺激し、好奇心を満たす「食の島あわじ」の実現に向け、淡路島のブランド力を活用した農畜水産業の生産拡大、さらには、島内の食品加工・飲食・観光などの他産業と一体となり、一層の淡路島食材の価値向上と魅力の発信を進めます。

II 主な取組内容

推進項目 1

スマート化による新しい農林水産業の実現

観光客やレストラン向けのイチゴやトマト生産など、高品質な生産が継続できる環境づくりのため、環境データ計測機器を活用した栽培管理をはじめ、運搬や防除作業を行う小型多機能ロボットや牛の分娩時の監視カメラ、アシストスーツの導入など、省力化でいきいきと働き続けられる現場づくりを進めます。

推進項目 2

多様性と都市近郊の立地を活かした力強い農業の展開

野菜産地の育成・拡大等に向け、たまねぎの大型鉄コンテナ導入による機械化体系モデルの普及や、関西屈指の切り花の安定生産に向け、電照設備や灌水設備等の導入を推進します。効率的な生産が行える基盤づくりでは、稲作中心の北部の中山間地や三毛作が盛んな南部の平野部のそれぞれの営農形態に沿ったほ場整備等を進めます。

また、農地活用・保全を推進するため、人・農地プランや「いきいき農地バンク方式」の取組拡大等により、農地の集積・集約化を図ります。

推進項目 3

需要に応じた高品質な畜産物の生産力の強化

「淡路ビーフ」で知られる肉用牛生産では、担い手確保に向け、後継者や新規就農者に対し飼養及び繁殖管理技術の習得を支援します。生乳生産では、生産拡大のため、高能力受精卵の活用支援による後継牛の確保などを進めます。

推進項目 5

豊かな海と持続的な水産業の実現

適正な栄養塩濃度の確保を図るため、漁業者も参画して行うため池のかいぼりや海底耕うん活動をはじめ、海底の堆積物を摂取して分解するなど環境改善が期待できるウニやナマコなどの



令和の大嘗祭の献上鯛

放流を推進します。また、海域の生産力の底上げを目指し、ウバメガシを活用したアオリイカの産卵床や魚礁ブロック等の設置など新たな漁場の整備を進めます。

推進項目 6

農林水産物のブランド力強化と生産者所得の向上

食を中心とした産地の魅力発信を強化するため、生産者、観光業、飲食店等が中心となり、淡路島なるとオレンジや3年とらふぐ等の新たなブランドづくりや食が堪能できる飲食店の拡大、首都圏へのプロモーション等を進めます。



淡路島なるとオレンジの香り等を生かしたスイーツのPR

推進項目 8

特色を活かした活力ある地域づくりの推進

獣害に強い集落づくりを推進するため、ICT等を活用した捕獲システムの構築に取り組みます。また、ジビエの利用拡大に向け、加工グループによる淡路島野菜を利用したジビエ料理の開発等を行います。

また、農地やため池の多面的機能を最大限に活かすため、大雨時等に対応する田んぼダムやため池貯留等を進めます。

推進項目 9

農山漁村の防災・減災対策の推進

日本一密集している島内のため池の防災・減災対策では、老朽化が進んだため池の整備や統廃合を進めるとともに「淡路島ため池保全サポートセンター」による、ため池の保全管理を支援します。

また、南海トラフ地震等による津波・高潮に備え、沼島漁港等の防災対策を強化します。

推進項目 12

「農」と多様な分野との連携強化

JAや農業法人等の組織と障害者施設との交流会等を通じた相互理解を深め、たまねぎや花卉の収穫作業、鶏卵採取など、地域の多様な人材による淡路島農業を推進します。

○ 諮 問

諮問第137号

農林水産政策審議会

「ひょうご農林水産ビジョン2025の見直し」について(諮問)

このことについて、下記により、貴審議会に諮問します。
「ひょうご農林水産ビジョン2025」について、農林水産業及び農山漁村をめぐる情勢の変化に対応し、施策を効果的に進めるための所要の見直し

平成31年3月8日

兵庫県知事 井戸 敏三

○ 答 申

令和3年1月13日

兵庫県知事 井戸敏三 様

農林水産政策審議会 会長 内田一徳

「ひょうご農林水産ビジョン2025の見直し」について(答申)

平成31年3月8日付け諮問番号第137号で諮問のあった標記のことについては、審議の結果、別添のとおり答申します。

兵庫県は、平成28年3月に「ひょうご農林水産ビジョン2025」を策定し、これに基づき、県民の参画と協働により、農林水産振興施策を総合的に推進するとともに、ひょうごみどり白書の作成を通じてビジョン実現に向けた毎年の取組を評価・検証してきた。

この間、TPP11の発効など経済活動のグローバル化のさらなる進展、ICT等を活用した農林水産業に利用可能なスマート技術が急速に進展する一方、地域の重要な担い手である団塊世代のリタイヤが本格化する等、少子高齢化の進行による労働力不足や地域活力の低下が顕著になるなど、食と「農」をめぐる社会情勢は大きく変化している。

また、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、インバウンドや外食需要の減少が続く一方で、国産・国内回帰の流れによる生産供給体制の見直しや、都市集中の暮らしからの田園回帰の気運の高まりなど新たな動きも見られる。

このような中、本農林水産政策審議会は、平成31年3月、知事から「ひょうご農林水産ビジョン2025の見直し」について諮問を受け、審議会に「農林水産企画部会」を設け、全4回の総会及び全7回にわたる部会において、現ビジョンに基づく取組の検証、それらを踏まえた課題の抽出や方策の検討などの調査審議を行ってきた。

本答申は、今後10年間を見通した農林水産行政の基本指針であり、兵庫の強みである「都市近郊の立地」を最大限に活かした農林水産業の基幹産業化を推進し、地域を持続的に発展させるための新たな農林水産ビジョン案についてとりまとめたものである。

なお、新たな農林水産ビジョンの推進にあたっては、特に下記について格別に配慮されるよう要請する。

記

1 将来にわたる農林水産業の持続的な展開に向け、都市近郊の立地を活かし、地域の経済と雇用を支える基幹産業化に引き続き取り組まれない。

特に、社会情勢の変化や現場の声等を踏まえ、

- ① ポストコロナ社会を見据えた販売力強化と需要の喚起、農山漁村地域の活性化
- ② 効率化・高品質化を進める農林水産業のスマート化
- ③ 担い手農家、兼業農家、非農家など多様な人材が地域の農業を支え合う地域協働体制の構築
- ④ 県産品のブランド力強化・輸出拡大等を重要な視点として捉えること
- ⑤ 世界的にもクローズアップされているSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成も考慮しながら、施策展開を図られたい。

2 新たな農林水産ビジョンを推進するために、県の施策、予算、執行体制等について、格別の配慮を払われるとともに、広く県民の主体的な参画と協働のもと、めざす姿の実現に向けてメリハリの効いた取組を積極的に展開されたい。

● 農林水産政策審議会 委員名簿 (令和3年1月13日現在 50音順・敬称略)

氏名	所属等	役職	委員変更日
石堂 則本	兵庫県森林組合連合会 前代表理事会長		
内田 一徳	神戸大学 名誉教授	会長	
戎本 裕明	明石浦漁業協同組合 代表理事組合長		
大山 憲二	神戸大学大学院農学研究科 教授		
岡田 真希子	(株)元気工房さよう 常務取締役		
小木曾 正	(株)トーホーストア 代表取締役社長		
小田 滋晃	京都大学 名誉教授	副会長・部会長	
片山 象三	兵庫県市長会 理事(西脇市長)		
衣笠 智子	神戸大学大学院経済学研究科 教授		
酒井 菊代	兵庫県女性農漁業士会 副会長		令和元年10月24日から
石井 妙子	兵庫県女性農漁業士会 会長		令和元年10月23日まで
酒井 欣也	(株)サンテレビジョン 営業事業局付 プロデューサー		
澤本 辰夫	兵庫県農業協同組合中央会 代表理事会長	副会長	令和2年8月21日から
石田 正	兵庫県農業協同組合中央会 代表理事会長	副会長	令和2年8月20日まで
武山 絵美	愛媛大学大学院農学研究科 教授		
田沼 政男	兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長		
中村 貴子	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授		
西村 銀三	兵庫県町村会 理事(新温泉町長)		
長谷川 尚史	京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授		
原田 俊一	ひょうご卸売市場協働ネットワーク協議会 副会長		令和元年10月24日から
廣瀬 正行	ひょうご卸売市場協働ネットワーク協議会 副会長		令和元年10月23日まで
平峰 英子	(株)坪口農事未来研究所 代表取締役		
福井 佑実子	(株)プラスリジョン 代表取締役社長		
藤本 和弘	(一社)兵庫県農業会議 会長		
藤原 建紀	京都大学 名誉教授		
船越 照平	(一社)兵庫県食品産業協会 会長		
枅岡 望	日本土地山林(株)山林事業部 部長		
皆川 芳嗣	(株)農林中金総合研究所 理事長		
三宅 康成	兵庫県立大学環境人間学部 教授		
八木 隆博	兵庫県農業法人協会 会長		
山口 幹男	兵庫県農業経営士会 会長		

※ 委員任期:平成31年3月8日～令和3年3月7日

● 農林水産ビジョンの見直しに係る農林水産政策審議会における審議経過

	開催年月日	内容
第1回 総会	平成31年3月8日	「ひょうご農林水産ビジョン2025」の見直しに向けた現行ビジョンに基づく施策の評価・検証 等
第1回 企画部会	令和元年8月21日	現行ビジョンの評価・検証、農林水産業事業者アンケート及びヒアリング内容 等
第2回 企画部会	令和元年10月31日	ひょうごみどり白書2019(素案)、農林水産業事業者アンケート等結果、新ビジョン施策体系 等
第2回 総会	令和元年12月18日	新ビジョン策定に向けた論点、及び施策体系の骨格案 等
第3回 企画部会	令和2年6月3～10日	[書面協議]新ビジョン骨格原案、施策体系、指標の考え方 等
第4回 企画部会	令和2年7月9日	新ビジョン骨格案、施策体系、指標の考え方(総括的指標、成果指標) 等
第5回 企画部会	令和2年8月19日	新型コロナウイルス関連情報の整理、新ビジョン答申(素案) 等
第6回 企画部会	令和2年10月7日	総括的指標、成果指標、経営モデルの考え方、新ビジョン答申(素案) 等
第3回 総会	令和2年11月2日	新ビジョン答申(素案)
第7回 企画部会	令和2年11月25日	新ビジョン答申(原案)、ひょうごみどり白書2020(素案)
第4回 総会	令和2年12月16日	新ビジョン答申(案)

兵庫 県

令和3年3月

編集／兵庫 県農政環境部

神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL.078-341-7711(代表) FAX.078-362-4458(総合農政課)